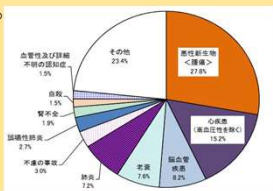


活動背景

肺炎は、食べること・飲み込むことの機能が落ちる個(摂食嚥下障害)により、食べたものや飲んだものが食道ではなく気管に入ってしまう(誤嚥)起きる場合もある。「**誤嚥性肺炎**」という。摂食嚥下障害は、食べる機能が衰えた高齢者や、食べる機能そのものに障害を持った状態。

日本の死亡原因割合



－高齢者・障がいがある方の現状－

高齢 障がい



食べる機能が低下する

食べ物に制限がかかる

食事を楽しむ機会が少なくなる

調整食なんていやだ！！
食べたいものをいつまでも
美味しく食べたい！！！！

活動目的

**摂食嚥下障害があっても食べることを諦めず
いつまでも好きなものを食べ続けてほしい！！**

- ◆ 高齢や障がいによって食べたいものが食べられなくなった方の支援
- ◆ 「食べる楽しみ」を思い出してもら
- ◆ 「安全に美味しく食べ続ける方法」の啓蒙
- ◆ 世代を超えたコミュニケーションの場を設ける
- ◆ 摂食嚥下機能を保つ手助け

高齢者に馴染み深く
且つ、京都らしい
飲み込みやすい
和菓子の提案・普及

地域との連携

- ◆ 京都市内の団体と協力し、広範囲にわたって活動
- ◆ 連携をとった広報により、様々な方が興味を持ってくれる



これまでの活動

◆ やわらか和菓子の提案・検討



やわらか和菓子ってなに？？？

飲み込む力が弱くなった高齢者や障がいがある方でも安全に、より楽に飲み込むことができる和菓子のことじゃよ。

- 摂食嚥下障害がある方の壁となる物性(凝集性、付着性)を取り除いてる
- 味だけでなく、見て目にもこだわり季節感を感じられる



春の合わせ餅

◆ 「たべることわたし」パンフレットの作成

いつまでも食べ物をおいしく食べるための調理の工夫、食材の選択法についてまとめた。
自身の現在の飲み込む力を知ってもらい、「おいしく安全に食べ続ける」ことの啓発をする。

現在vol.2を作成中！
嚥下体操、食事時の姿勢、
口腔ケアについて解説



・出張イベント

施設に訪問し、実際にやわらか和菓子を食べてもら。嚥下体操や発声練習を行うことで、今の摂食嚥下機能を維持する促しを行う。



・KOKA☆オレンジサロン

学校に地域の人を招きやわらか和菓子の試食をしてもらう。
嚥下体操や発声練習を行うことで、摂食嚥下機能低下を予防する。
地域介護予防推進センターと連携を取り、介護予防のために認知機能を低下させない脳トレを行う。



まとめ

■地域にとって

- 食べる力が低下しても、お餅や団子を食べられる喜びを感じていただける
- 嚥下調整食や食べることに対する関心を高めていただける
- 高齢や障がいのある方と学生との交流により、双方に良い刺激となる
- 食への楽しみが増し、元気を与えられる

■学生にとって

- 嚥下障害や嚥下調整食についての知識を強化できる
- 講義だけでは学べない、現場の声・様子を知ることができる
- 相手に合わせた適切なコミュニケーションを身をもって学べる
- 和菓子への関心を高め、知識を増やすことができる



私たちは、摂食嚥下障害のある方だけでなく、予防段階の方にも摂食嚥下の大切さを広める活動をしています。
関心を持っていただくことで、ご自身の食について考えていただけるきっかけとなればよいです。
食を共にするということは、会話をすることと同じで、コミュニケーションの一環だと考えております。
私たちは食を通し、より多くの方にコミュニケーションを楽しんでいただけるよう、さらに邁進して参ります。